

# 京都党

KYOTO PARTY  
地域政党

# 直接請求、全会一致で否決

これが署名の結果です...

| 左京区議員の採決 |    |
|----------|----|
| 加藤あい     | 反対 |
| おんづか功    | 反対 |
| しばた章喜    | 反対 |
| 大西ひとし    | 反対 |
| 樋口英明     | 反対 |
| とがし豊     | 反対 |
| 巻野わたる    | 反対 |
| 鈴木マサホ    | 反対 |

昨年11月、一ヶ月の短い期間で収集された議員定数の削減を求めた直接請求。約4万名の捺印入りの署名が提出され、うち33704人の署名が有効。1月24日、それを受け、臨時議会が開催されました。行革を進める中、議会も例外なく改革をしなければならない。無駄をなくし、スリム化を進めねばならない。京都府をはじめ、既に全国の議会で削減を着手済みのこの問題。しかし、結果は、全会派揃っての否決。寒空の中、市民の皆様が東奔西走し集めた声を無視したという事実。市民の代表である議会が、市民の声を無視するという暴挙。一部では、定数削減の意思はあるとしながらも否決。全ては結果。どんな言い訳をしようとも空虚。改革を叫びながらも、自己保身を忘れない二枚舌外交。これが改革の聖域といわれる議会の実態です。

## 「3万数千程度の署名は、民意の結集とは言えない！」

これは、自民党市議の言葉です。民主党に至っては、削減の必要性を認めながらも、問題を先送りしました。4万近い署名によって提出された「市会議員の定数削減」条例に全会一致で反対した京都市会。結局、自分たちの首を自分で絞めたくない！という一言に尽きます。行政改革をしなければならない昨今、その先頭に立つ議員が自己保身に走り、民意を踏みにじるという暴挙を許すことはできません。しかし、この民意を無視した暴挙、改革の意思がないことははっきりしました。覚悟せぬ政治家に改革は出来ない。この問題は、今春の統一地方選で再び信を問いたい。

議員定数削減請求代表者  
村山 祥 栄

## 京都党マニフェスト完成 (概要版)

今、まさに国も地方も財政危機に直面しています。もちろん財政難になった原因は、もちろんひとつに絞ることはできません。

私たちは本書作成にあたり、改めて公約の責任を自戒する必要があると考えました。

これまで、選挙のたびに既成政党、各候補があれもこれもと財政状況を鑑みず市民の皆様にご公約(マニフェスト)というかたちでお約束をしてきました。

その結果、マニフェストはいい事尽くめの言いたい放題、ばらまき合戦になっていました。それが財政難の引き金になってきたことは、国政の現状から誰の目にも明らかです。

また、政治の役割について申し上げます。政治の究極的な役割は、集めた税金をどう分配するかということです。

しかし、これまでの政治は、分配する原資が不足する中、分配することに終始し、その財源そのものから目を背けてきました。

## 財政に責任を持つこと=未来に責任をもつこと。

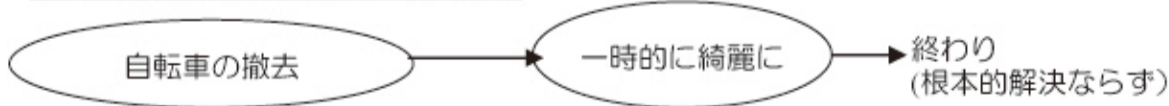
「これをやれば良くなる、あれもやれば喜ばれる」と提案したい政策は山ほどあります。しかし、それは結果としてこれまでの政治と同じように、問題やツケが先送りされるだけです。だからこそ、本書では本当に最低限の政策提案に留め、従来のような優先順位をつけない公約ではなく、優先順位をつけたマニフェストを提案することにしました。

## コラム 財政難時代の発想の転換

財政難だと出来ることは確かに限られてきます。しかし、財政難は本当に不幸なことばかりでしょうか。私たちは、この未曾有の財政危機を逆手に取り、新しい時代に適合した予算の使い方の発想を変えていきたいと考えています。

予算の執行は、価値ある未来への投資でなければなりません。その為には大きなパラダイムシフト(発想の転換)が必要なのです。

### こんなお金はムダになる！



### 例えば、こんな発想！

